

～ 収量・品質向上で所得を確保しましょう ～

- 「適期に確実な培土」で雑草の抑制と収量アップ！！
- 培土後は「排水溝の再点検」で生育を確保しましょう。

1. 培土と排水対策の徹底

○ 培土は大豆の収量・品質を大きく左右するので、晴れ間をみて確実に実施しましょう。

～ 1回目は遅れずに、2回目は確実にいきましょう～

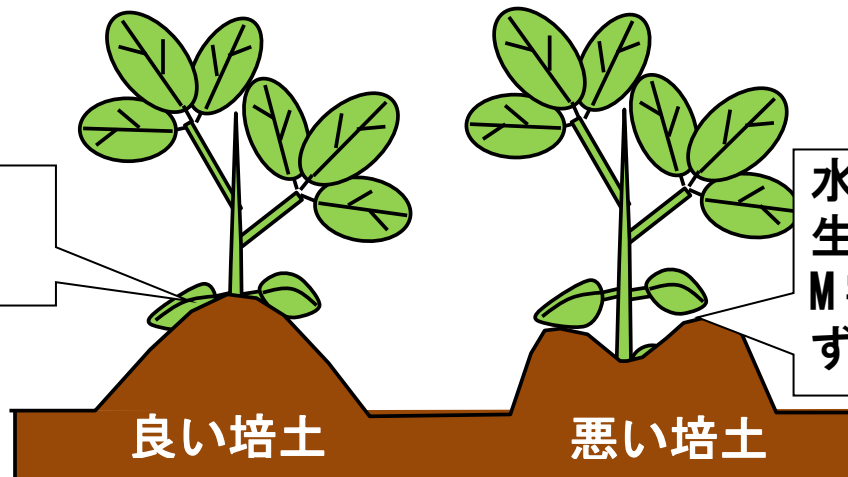
〈1回目〉
本葉2～3葉期
(播種20～25日後頃)
子葉が埋まる程度
まで培土する。



〈2回目〉
本葉4～5葉期
(播種30～35日後頃)
初生葉が埋まる程度
まで培土する。



株元までしっかり土を
寄せる。



水がたまり、湿害や病害が発生しやすくなる。
M字型の培土では新根が伸びず、株間の雑草が残る。

【培土作業と排水対策のポイント】

- 作業の前に培土板の調節や耕うん爪の点検（すり減った爪は交換）を行いましょ。
- 乾いたほ場から作業を行い、株元までしっかり土を寄せましょ。
- 培土でできた溝は、その日のうちに額縁排水溝や排水口にしっかり連結するとともに随時点検・補修し、ほ場の停滞水を速やかに排水できるようにましょ。
- 晴れ間をみて速やかに2回目（本葉4～5葉期、播種30～35日後）の培土を実施し、生育量を確保し雑草の発生を抑えましょ。
- 培土したところに新たな根が発生し、生育が促進され、倒伏防止にもつながります。
- 麦跡等の1回目培土（2～3葉期、播種20～25日後）も遅れずに行いましょ。



2. 除 草

～ 雑草の種類に応じて除草剤を散布しましょう ～

薬剤名	対象雑草	10a 当たり散布量	使用方法	使用時期	使用回数
パワーガイザー液剤	1年生雑草	薬量 200～300ml (水 100ℓ で希釈)	雑草茎葉散布	出芽直前～3葉期まで (雑草発生始期～2葉期)	1回
			雑草茎葉散布 ※畦間処理	生育期(雑草発生揃期～2葉期) ただし収穫 30 日前まで	
ポルトフロアブル	1年生イネ科雑草 (スメカカビラを除く)	薬量 200～300ml (水 100ℓ で希釈)	雑草茎葉散布	イネ科雑草 3～10 葉期 ただし収穫 30 日前まで	1回
大豆バサグラン液剤	1年生広葉雑草 (イネ科を除く)	薬量 100～150ml (水 100ℓ で希釈)	雑草茎葉散布	大豆 2 葉期～開花前まで (雑草 6 葉期まで) ただし収穫 45 日前まで	1回
			雑草茎葉散布 ※畦間処理	大豆の生育期(雑草 6 葉期まで) ただし収穫 45 日前まで	
ロックス	1年生雑草	薬量 100～200g (水 100ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 ※畦間・株間処理	本葉 3 葉期以降 雑草生育期(草丈 15cm 以下)ただし収穫 30 日前まで	1回
ザクサ液剤	1年生雑草	薬量 300～500ml (水 100～150ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 ※畦間処理	雑草生育期 ただし収穫 28 日前まで	3回

※ 除草剤は、雑草の種類及び生育状況、大豆の生育状況から判断し、適期を逃さずに散布しましょう。
※ 畦間・株間処理をする場合は、薬害を軽減し効果をも高めるために吊り下げノズルを使用しましょう。

【難防除雑草の発生に注意】

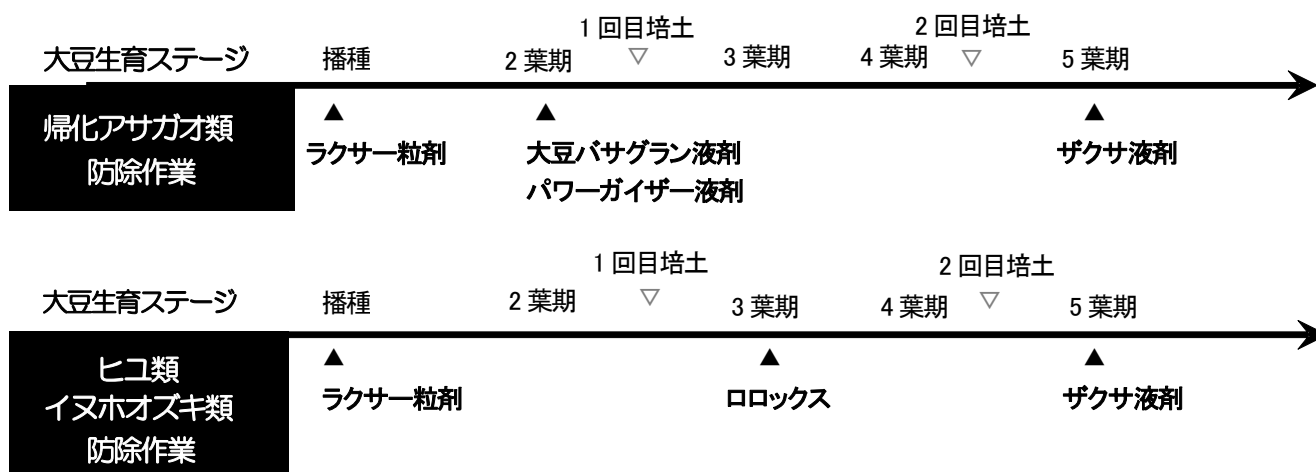
大豆ほ場への侵入・蔓延を防ぐため、早期発見に努め、ほ場侵入初期の防除を徹底しましょう。

イヌホオズキ↓



マルバルコウ↑

【難防除雑草（帰化雑草等）に対する薬剤防除と管理の目安】



※ 留意事項 ※

- 畦間・株間処理をする場合は、薬害を軽減し、効果をも高めるために吊り下げノズルを使用しましょう。
- 帰化アサガオ類の発生がみられたら早めに抜き取りましょう。
- 除草剤散布後も発生状況に応じて、手取り除草等を行いましょ。抜き取った株は、そのまま放置せず、ほ場外で適切に処分しましょう。

詳しくは各地区営農経済センターにご相談ください。

☆ 「守ろう 農薬ラベル 確かめよう 周囲の状況」農薬危害防止運動実施中(4/1～9/30)

☆ 栽培履歴の記帳・とやま GAP の実践を！

大豆情報第3号の発行は7月中旬予定